

視察・研修報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 藤岡 一弘

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 4 年 12 月 19 日(月) ~ 12 月 21 日(水)
用 務 先	風伝館(京都府京都市上京区室町通丸太町上る大門町 253 番地) 加賀市役所(石川県加賀市大聖寺南町ニ 41 番地)
用 務	風伝館の視察・研修 加賀市医療センターの視察・研修
概要及び所見 (目的, 参考に すべき事項, 提言, 活用策 等)	<p>○風伝館の視察・研修について</p> <p>(1)風伝館の概要</p> <p>風伝館はアマタグループが運営する築約 150 年の京町家を改装した建物で、2014 年 7 月にオープンした。2 階建ての町家を活用し、企業・団体・市民など所属を問わず、市民活動と事業活動の垣根を越えた社会問題解決を探る「場」として開放している。1 階はコミュニティスペースとして、社会活動やイベントに利用できる。2 階はアマタミュージアム(展示スペース)として、現代の社会課題・未来予想とともにアマタグループの歴史・ミッション・事業内容などを紹介している。</p> <p>(2)地域と企業の課題を統合解決する互助共助型資源回収ステーション</p> <p>地域の抱える 4 大課題「人口減少・雇用縮小・少子高齢化・社会保障費の増大」や、資源枯渇などの地球環境問題が深刻化する中、持続可能な地域づくりの必要性が高まっている。アマタグループはこれらの課題を統合的に解決し、経済と環境が両立する社会の最適解を導くソリューションとして、互助共助コミュニティ型資源回収ステーション「MEGURU STATION®」を開発している。「MEGURU STATION®」は、コミュニティ醸成機能と地域資源の循環促進機能を融合した、多様な人々が集う拠点である。</p>

(3)MEGURU STATION®の設置自治体「福岡県大刀洗町」の取組みについて

福岡県大刀洗町は、大刀洗町ふれあいセンターの一角に「MEGURU STATION®」を設置し、3R+C 活動の推進に向けた社会実験を開始した。地域モニターや運営ボランティアの方々と協力し、住民の方にごみの分別や生ごみのリサイクルを行い、地域コミュニティ活動の活性化及びごみの減量化に取り組んでいる。また、アマタが独自開発した小型バイオガス装置「スマート・コミュニティ・バイオ」を設置し、住民が持ち込んだ生ごみから液体肥料とバイオガスを生成している。

(4)所感

現在の人口や経済拠点の東京一極集中にあるような大都市依存型の社会は持続的ではない。今後ますます深刻化する地域の4大課題(人口減少・雇用縮小・少子高齢化・社会保障費の増大)を克服するためには、経済的・精神的に自立した、地域づくりが必要である。

今回の視察・研修で、MEGURU STATION®の社会実験を通して、地域のごみの減量化の取組みと液体肥料を域内の資源でつくる仕組みづくりを理解することができた。

今後、ますます地域内での循環型社会の構築が必要となってくる。今回の視察・研修を「ごみ」の減量化の仕組みづくりを構築するヒントとして、政策提案につなげていきたい。

○加賀市医療センターの視察・研修

(1)加賀市医療センターの概要

病床…300床

一般病棟…214床(内ハイケアユニット10床)、 地域包括ケア病棟…41床、
回復期リハビリテーション病棟45床

構造…RC造一部PSPC造(免震構造)、 延床面積…26,628.55㎡

〈診療科〉

内科、循環器内科、呼吸器内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、リウマチ科、外科、消化器外科、乳腺外科、肛門外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、総合診療科

〈その他〉

救急センター、集中管理センター(HCU)、腎臓ケアセンター、健診センター、内視鏡室、手術室、地域連携センター つむぎ、医療安全管理室、感染管理室、医療支援室、薬剤室、放射線室、検査室、栄養室、リハビリテーションセンター、医療機器管理室、病児・病後児保育室 かもっ子、訪問看護ステーション りんく

(2)加賀市医療センターのポイント

平成28年4月、加賀市民病院(市直営)と山中温泉医療センターを統合した「加賀市医療センター」が開院した。加賀市医療センターの一般病室は、療養環境の向上を図るた

め、一般病室は全室個室とした。その他にも、出産時の妊婦の負担を軽減するため、陣痛、分娩、回復を1つの部屋で行えるLDR室(Labor+Delivery+Recovery)の整備を2室設置している。

新病院の大きな目玉として、地域連携センター「つむぎ」の設置があげられる。地域連携センター「つむぎ」は、今までのような医療機関同士の連携だけではなく、地域包括ケアの拠点である行政も参加している。新病院の院内に医療と介護の連携として、地域包括支援センターを併設しており、病院スタッフだけでなく、包括支援員やケアマネージャー、保健師も常駐することで、院内で術後も含めたすべての相談を可能とする体制を整えている。

(3)所感

本市において、市立三次中央病院の建替えが今後予定されている。現在の市立三次中央病院が350床であり、新病院は300床を予定している。今回、同じ病床数で、平成28年に開院した加賀市医療センターを視察した。市立三次中央病院の建替えにあたり、どのような診療科や機能・役割を充実させることが、市民の方や患者の方々にとって、より有益になるのか参考にしていきたい。

